

# 芹沢文学読書会

案内通信  
No. 167  
2024年4月22日(月)  
(令和6年)

## 4月便り

4月18日の夜中に、豊後水道で地震がありました。地震は思ったより強く、南海トラフ大地震ではないかと恐れました。テレビで、豊後水道の四国寄りとなり、愛媛県や徳島県で震度6弱で、国東は震度4(津久見や佐伯は震度5弱)でした。それにしても、最近各地で地震が頻発し、東京(関東圏)や西日本(南海トラフ圏)での大震災が心配されます……。

大リーグの大谷翔平は、信頼していた通訳の水原一平がギャンブル依存症で大損し、預金から盗まれて、1600万ドル(24億5000万円)も送金されるという災難に遭ってしまいました。大谷は、今は野球に専念して、ヒットやホームランを記録的に打っています……。

今年も芹沢文学読書会を継続しています。今回の読書会から、『思い出すこと』の批評を読み始めます。初夏の爽やかな季節です、お元気に読書会にお出掛け下さい。

群れてるなり  
遅しく…  
松林庵主人  
蒲公英が

## 第167回・芹沢文学読書会

①日時: **5月19日(日)** 午前10時~12時 [\*特別に第3日曜日午前です]

②会場: **大分県立図書館 研修室 No.1** [\*特別に研修室No.1です]

③内容: **[I] 芹沢文学に関する話題や情報** 10:00~10:10 am 自由に話す。

**[II] 芹沢文学読書会** 10:10~11:40 11:45~12:00 am 輪読

○テキスト①「**一 『海に鳴る碑』と『愛と知と悲しみと』** ②「**二 青春小説**」

\*①は、『芹沢光治良文学館』の第七巻で、長編小説の『海に鳴る碑』と『愛と知と悲しみと』が収録されました。『海に鳴る碑』は大河小説『人間の運命』の序章です。『愛と知と悲しみと』は付属物です。

②は第一巻で、青春小説の『麓の景色』『さいりろ地球』『生まれた土地』が収録されました。それぞれに思い出がありますが、青春小説としては『春の谷間』と『バリ留学生』を選ぶべきだったと記入。

初出/『芹沢光治良作品集』(新潮社発行)の全16巻の月報に連載されました。昭和49年2月~同50年5月。

初刊本/『**こころの広場** 第三章 思い出すこと』昭和52(1977)年4月15日 新潮社発行。全245頁、800円。

再録/『**芹沢光治良文学館 12**』平成9(1997)年8月10日 新潮社発行に再録。239~298頁。

＝次回は、7月14日(第2日曜日)午前の予定です。＝

◎同封資料: 短篇小説「**藍色の空**」**芹沢光治良** 昭和18(1943)年9月19日號 朝日新聞社発行雑誌(週刊朝日)。30~33頁。\*戦時中の週刊誌(週刊朝日)に掲載された短篇小説です。鶴頭正太郎は駅長の父に従って各地を転々となりました。信州の追分は、少年時代に過ごして美しい追憶の地で、千代と結婚して新婚旅行にきた思い出の地でもありました。夫が戦死して、息子淳一を連れての旅が書かれています。活字が小さいので拡大鏡でお読み下さい。【資料提供/中村輝子】

## 芹沢文学・大分友の会



連絡先: 〒872-1651 大分県国東市国東町浜 4765(番地) 小串信正方

FAX 0978(77)0565 郵便振替口座 01970-5-16072/芹沢文学・大分友の会

☆ **第166回・芹沢文学読書会の報告** 於 大分県立図書館・研修室No.5 』♪♪♪

3月10日(日)に、大分県立図書館の研修室No.5で第166回の芹沢文学読書会が行われました。芹沢文学館の頃の会報「芹沢・井上文学館 友の会会報 157」を今回も参考資料として参加者に渡しました。連載 芹沢文学入門 82「短編小説 我入道」(小串信正)や生誕百年記念の芹沢光治良文学愛好会による「フランス・スイス ロマンの旅」が掲載されていました。

今回のテキストも、『文学者の運命』の二随想で、①「わが書斎の珈琲はうまかった」②「他人の原稿を読んで」を読み語りました。①には、伊藤整、永松定、荒木巍氏のことを回想して、書斎を訪ねて来た経過が書かれています。②には、阿部光子さんの原稿を沢山読んだこと、I君やN君、C君との交流も書き、「戦前の作家志望者の不運をしみじみ思った」と回想。「私の親しみを覚えた作家」として、片岡鉄兵、武田麟太郎、横光利一氏を挙げ、語りたかったと書いています。次回からは、『こころの広場』の第三章「思い出すこと」を読み語りたいと思います。

【芹沢文学案内 No.110】新潮社版『芹沢光治良作品集』(全16巻)について ◇ ♣ ♡ ♡

『芹沢光治良作品集』は、新潮社より昭和49年2月から翌50年5月に、全16巻で出版されました。芹沢光治良は、大河小説『人間の運命』を全14巻で一応完稿して、昭和44(1969)年6月に芸術院賞を受賞しました。そして同45年の5月に「芹沢文学館」が開館し、12月に日本芸術院会員に選ばれました。

その後、大河小説『人間の運命』の終章として『遠ざかった明日』を創作し、昭和48年に序章として『海に鳴る碑』を書き上げて、大河小説『人間の運命』を全16巻で完結したのです。『海に鳴る碑』は、単行本としては刊行されず、昭和49年から新潮社より出版され始めた『芹沢光治良作品集』の第一回配本の第7巻に収録されて刊行されました。本格的な作品集として『芹沢光治良作品集』が生前に刊行されたのです。没後に『芹沢光治良文学館』(全12冊)が新潮社から刊行されましたが、全集は、未だに出版されていません。

『芹沢光治良作品集』表紙

『芹沢光治良作品集』の第1巻には、長編小説『麓の景色』『きいろい地球』『産まれた土地』、第2巻には、長編小説『未完の告白』『花束』『女にうまれて』、第3巻には、長編小説『懺悔紀』『孤絶』『離愁』、第4巻には、長編小説『愛と死の書』『愛と死の蔭に』『サムライの末裔』、第5巻には、長編小説『巴里夫人』『巴里に死す』、第6巻には、長編小説『われに背くとも』『遠ざかった明日』、第7巻には、長編小説『海に鳴る碑』『愛と死と悲しみと』、第8巻には、中・短編小説集、第9巻には、随筆集、第10巻には、『人間の運命』1 第一巻『父と子』、第二巻『友情』、第11巻には、『人間の運命』2 第三巻『愛』、第四巻『出発』、第12巻には、『人間の運命』3 第五巻『失われた人』、第六巻『結婚』、第13巻には、『人間の運命』4 第七巻『孤独の道』、第八巻『嵐のまえ』、第14巻には、『人間の運命』5 第九巻『愛と死』、第十巻『夫婦の絆』、第15巻には、『人間の運命』6 第十一巻『戦野にたつ』、第十二巻『暗い日々』、第16巻には、『人間の運命』7 第十三巻『夜明け』、第十四巻『再会』が収録されています。この作品集で大河小説『人間の運命』の全16巻を全読することが出来るのです。

『芹沢光治良作品集』は、ハードカバーで箱入の愛蔵版とフランス装の廉価版の二種が出されたのです。古本屋(BOOK・OFFなど)で、単冊や全16巻セットで売られていることがあります。『芹沢光治良作品集』に収録されなかった作品の多くが、『芹沢光治良文学館』(全12冊)に収録公開されました。①